



408-0044 山梨県北杜市小淵沢町10122
0551(36)3826 ペンション風路

今回は、北の道番外編です。記録的な猛暑で体調を崩し、予定の半分も歩けなかったのですが、転んでもただでは起きません!? 残りの日々はサンセバスチャン(3回目!) 経由のボルドー観光に変更。「巡礼の歩き旅はどこへやら」となったのでした。リハビリ後の初山行は、松本四賀の傘山。小粒ですがピリツと辛い、なかなかの山でした。傘寿になったら登れそうもありませんが:

スペイン巡礼の道 2017

ワインの聖地巡礼

北の道・番外編



このボルドーワイナリー巡りはペンションを始める前からコック周平の憧れでした。料理の修行をさせてもらったレストラン出入りのワイン業

者のYさんが2カ月に1度開くワイン勉強会で1回に4〜5本のワインを皆で試飲、Yさんが解説してくれました。シャトーラフィット、ムートン、マルゴーなどの特級ワインも飲ませてもらった貴重な体験からペンションの仕事が軌道に乗ったら、ボルドーのワイナリーを巡って買い付けをしたい、というのが夢となったのです。そのボルドーへ! サンセバスチャン駅からバス鉄道に乗り、パリに向かう仏新幹線の乗り換え駅エリンドアイユへ。駅前のカフェのマスターが三度笠をえらく気に入りに入り「被らせてほしい」とのこと、もちろん一緒に写真に納まりました。ボルドー駅に降り、駅前の

レストランでお昼。さすがに駅前のレストランであっても付け合わせもしっかりと作ってあつてとても美味しかったです。もちろんワインも♪ ガロンヌ川沿いの道をかなり迷いながら歩き回り、ホテルにチェックイン。前日にスマホで申し込んだツアーの集合場所を見下して、「と、とカンコンス広場へ行きました。しかしッ!! 広場は広大で端から端まで見渡せない!!」「これじゃどこに集まればいいのか、わからないなあ...」結局、公園の一番端にあつた大意な女神と竜(?)の彫刻がある噴水の所ではないかと推定。ホテルに帰りました。

集合場所は

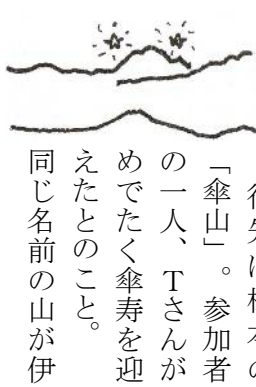


翌朝集合時間9時の20分前に、カンコンス広場の噴水前へ行きましたが、ツアーの参加者らしき人たちは見当たりません。他の場所も探してみましたが見つけれないまま集合時間が迫り、とうとう9時になってしまいました。泣きそうになって駆け回っていたら公園の一角から一組のご夫妻が近づいてきます。なんとそのご夫妻は私たちが申し込んだワイナリーツアー

傘山 松本四賀 1124.8 m

ひととき輝く常念岳

昨年11月末、周平が手術をうけ、現在そのリハビリ中。寒さもあつて、なかなか歩く機会が無かつたのですが、2月末には久しぶりの「歩こう会」で往復12キロを完歩。少し自信がついたところで、ロツジ山旅さんの木曜山行に参加しました。「リハビリ中でも大丈夫でしょうか」と聞いたところ「今は参加者全員がリハビリ中みたいなものから」との力強い(?)返事をいただき、参加することに。



行先は松本の「傘山」。参加者の一人、Tさんがめでたく傘寿を迎えたとのこと。同じ名前前の山が伊

に参加すること。そのまま公園の片隅に停まっていた乗用車に案内してくれました。このツアーは私たちと、このご夫妻4人だけの、プライベートツアーでした。もつと前に申し込んでいけば、地図を送ってくれたらしい。その地図が無かつたら無理です!! でも、なんとか合流できて、ほつとしました。振込済みの

那にあり、しちらが傘寿記念に登る山として有名なのだそうですが、その山は以前登ったことがあるので。

「ならば今度は冒頭の傘山(福寿草群落で知られる)に登ってお祝いしようと考えた。れっきとした登山道のある伊那谷の傘山と違い、こちらは小粒とはいえ地形図を片手に登る山である。

有名な福寿草の群落も、寒い今年には開花が遅くなっているらしい。現地に行ってみると北を向いた群生地の手にはまだ雪がたつぷりと残っていた。四賀村からの北アルプスは前衛の山越しになつてなかなか味わい深い。そこで主役、常念岳は真っ白な姿を現していた。

なるほどこれは秋には入山御法度のはずだと納得の美しいアカマツの山である。登るにつれて傾斜を増す斜面を、ケモノ道だかキノコ採りの道だかわからない踏跡を適当に

料金かなりの金額だったし...
「傘山」
車で小一時間走るとサンテマリオン地区の小さなワイナリー到着。道路から人ひとり通れる橋を渡って中に入りました。運転手でガイドのUさん(日本人男性・フランス語堪能)がワイナリーの女性と親しげ

拾って登っていった」(ロツジ山旅 掲示板&山行記より) 山旅山行は道なき道を登り下りするので、特に退院後初山行としては超ハード! 今回は急登の斜面をほぼ直登。それでも傘寿の方が登っているのを見れば弱音を吐きつつもがんばるしかありません。

なんとか頂上へ! 樹林に囲まれた頂上には祠と木に架けられた「傘山」の標識。

やりました! 昼食後の下山はさらに慎重に。途中林道らしき道に出た時「この道を行きましよう」と強く主張。しかしかなりの遠回り、その上たつぷり残っている雪が固く凍っていて、すいすい下山、とはいきませんでした。

ようやく、家並みが見えてきて、山旅車を停めてある所に着いたときには疲労困憊。でもまた一つリハビリのハードルを越えたかな?



に話をし、さっそくワイナリーの中を案内してもらいました。入口から階段を降りると、地価の大きな洞窟で、ひんやりした空気の中に無数のワインのケースが積まれ、何百年もの年月をへたワインも眠っていました。
「私たちが生まれた年のワイ
うらへつづく

表からつづく

ンもありますよ」とUさん。洞窟内を巡ってから事務所の部屋で試飲をさせてもらいました。

お昼近くにサンテミリオンのレストラン街へ。周りが古い石造のレストランになっていて、それぞれのレストランがテーブルと椅子を広場に並べ、多くのグループが食事を楽しんでいました。

私たちももちろんワインとランチを頂きました。

さて、食事

が済んだころ迎えに来てくれたガイドさんの車で向かった先はフランスワインの最高峰5大シャトーの一つシャトーマルゴのワイナリー！フランスワインの格付けで一級の地位を保持している世界に知られたワイナリーです。門から覗くと正面にマルゴのボトルに貼つてあるラベルそのままのシャトーの建物が見えました。中の見学はぜひ前から申し込まないとだめなようで、今回は玄関の外から建物を眺めるだけでしたが、ワイン好き



シャトーラツールの前で

にとつてここに立っているだけでも感動だそうです。続いて立ち寄ったのが大きな石造りの壁に鉄格子の門の前。ここも5大シャトーの一つ、シャトーラツールです。門の前で写真を撮り、敷地内に広がるブドウ畑を飽きずに眺めていました。

次に向かったのは広い試飲会場のある歴史のありそうなワイナリー。いろいろの赤、白ワインを堪能し大満足。

ツアードお世話になったガイド

ドさんはワインを学ぶために渡仏。そして自分でぶどうも栽培。ご自分の名前がついたワインも販売している、という方でした。なるほど、このワイナリーに行っても適切な通訳、素人にもわかりやすい説明。ワイナリーツアーのガイドとしては、これ以上ないくらいの方で、これもラッキーでした。

ガロンヌ川沿いを散歩

翌日、ガロンヌ川沿いを歩くと、橋のたもとにサンテ

アゴ巡礼の標識。ここも従軍社が通る道なのだ、と今回の旅の本来の目的を思い出しました。パリ市内にスタート地点もあるそうです。夕暮れのボルドーの空を眺めていると、広場で演奏しているヴァイオリンの音色が流れてきて、今回の旅の様々な想いがこみあげてきました



ともあれ無事帰国

さて、帰国の途につきます。ボルドー駅へ向かう路面電車のドラムの駅は駅舎もなくチケットの販売機が立っているだけ。ホームで待っていた少年に身振り手振りでチケットを買ってもらい、やってきたトラムに乗車。10分足らずでボルドー駅に着き、パリへ向かう列車の乗車券をこれまた長時間苦心惨憺の末、購入し、パリに到着して一泊。翌日バスでシャルルドゴール空港に向かいました。免税店では、もちろんフランスワインをしっかりと購入。帰りの機内で足元にワインを置いたので、窮屈で帰国後の成田空港で足が庫れたようにおかしくなると車椅子のお世話になった周平。空港の医務室で点滴をうけるはめになったのは余計なおまけでした。

渡嘉敷先生の
歩く
植物図鑑

オニシバリ (牧新1766)

NO.56
オニシバリ

ジンチョウゲ属の一種で、黄色い花を早春に開く。高さ1mほどになる落葉低木で、枝は細いが樹皮が丈夫で、これで鬼を縛る事ができるといふ説だ。オニシバリとは御伽噺にでてきそうな名である。だが実際に丈夫な速成の縄として重宝し、昔は山で粗朶を束ねる野に「重宝されたことである」。別名の「ナツボウズ」も意味深く、独特の生態をよ

主な区別点 (特徴)

	オニシバリ	ナニワズ	コショウノキ
葉形	楕円形	倒被針状楕円形	長楕円状被針形
葉の側脈	不規則に分岐する	分岐少なく整然	整然と伸びる
葉色・葉質	淡緑色、柔らかい	淡緑色、薄質	深緑色、厚く柔らかい
樹皮の色	汚灰茶色	汚灰茶色	褐色
落葉期	7~8月	7~8月	常緑性
花色	淡黄緑色	帯緑鮮黄色	白色または紫紅色
萼筒	無毛	無毛	外面に細毛がある
萼裂片	筒部の2分ノ1	筒部ほぼ同長	裂片の幅が狭い
分布	本州、九州、朝鮮済州島 温帯の浅山や丘陵	北海道、本州中部以北 温帯上部~亜寒帯暖	関東南部以西 暖地

方言名

地域

備考

ヒノカジ	熊本県八代	
ヒノカジ	宮崎県臼杵	
カミノキ	静岡県出水	樹皮の繊維を和紙の原料に用いた
サクラガンピ	静岡県田方	樹皮の繊維を和紙の原料に用いた
オニクビリ、カゾ、ヒョウ	静岡県上河津村	
オニガンピ	静岡県南上村	
カミカド、ガンピ	静岡県仁科村白川	
ヤマカシノ	静岡	
コショウ	山梨県	コショウノキに似ている(次ページ参照)
ナツボウズ	越後、山形県西置賜	夏に落葉する
ソロデグサ	青森県上水	

く表している。落葉性の植物は秋に葉を落とすのが普通なのに、オニシバリは早くも夏7~8月に葉を落とし、新しい葉は8~9月には枝端から翌春の花芽と共に現れる。秋になるとみずみずしい赤い実が熟し、如何にも食べられそうに見えるが、辛くて有毒である。分布は主に暖温帯で、本州(関東南部、東海地方東部、近畿北部)九州中部に自生している。また、福島県、石川県、徳島県にも見られ、朝鮮済州島にもわずかに自生する。オニシバリによく似た



ナニワズ(牧新1767)



コショウノキ(牧新1765)

D. p. var. coreanaが本州中部(南アルプス)秩父武甲山の石灰岩地に限ると挑戦半島及び沿海州に分布し、これは冬に落葉する。